

令和5年度 日野市立旭が丘小学校経営重点計画				自己評価シート				令和6年3月公表															
★学校教育目標								◎よく考える子ども ○なかよくする子ども ○がんばりぬく子ども ○体をきたえる子ども								★重点計画の概要							
★目指す学校像（ビジョン）																国や都、市等の教育施策に基づき、本校の学校教育目標の実現のために、次のような取組を推進していく。①よく考える子ども…ユニバーサルデザインの環境のもと、ICT機器等を活用し、発達段階を理解した指導をすることで、基礎基本を定着させる。言語活動を日常的に行い、思考力、判断力、表現力の育成を図る。②なかよくする子ども…道徳教育や人との関わりを通して、自他の生命を大切にすることや人権意識、豊かな心を育む。③がんばりぬく子ども…自分の目標に向かって、その達成のために学習や運動に取り組む姿勢を育てる。④からだをきたえる子ども…このような姿勢を育てるための基となる心の安定と体力・知力の向上を目指す。体育・保健・食育を通して、生きる意欲と活力をもった「旭っ子」を育てる。							
【めざす児童・生徒像】								○自ら気持ちを表現したり方法を見付けたりし解決するために能力を発揮できる子供 ○豊かな心と好ましい人間関係を持てる子供 ○自分にふさわしい目標を設定し最後までやり遂げる子供 ○進んで運動に親しみ自らの安全と健康に向かう子供															
【めざす学校像】								○子供たちが互いに学び合い成長する学校 ○安心して自分の力が発揮できる学校 ○教職員が情熱とプロ意識をもって実践し達成感のある学校 ○学校・保護者・地域が連携し信頼し合う開かれた学校															
【めざす教師像】								○明るく前向きで心身共に健康な教師 ○子供を見つめ認め一人一人を大切にすることや人間性ゆたかな教師 ○専門性の向上に努力するプロ意識をもった教師 ○保護者・地域と連携し児童の健全な育成にあたる教師															
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準						学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策												
				評価点	取組指標				評価点			成果指標											
確かな学力	どの児童も参加し、分かる授業・魅力ある児童主体の授業デザインを構築する。	学力の基盤となる基礎的・基本的な知識及び技能の習得のために、ユニバーサルデザイン化した授業づくりを推進し、実践する。	ひのスタンダードに基づいたどの児童も居心地のよい学校環境を整える。どの児童も参加できる授業について全教職員で共通理解し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れて、どの児童も参加できる指導を実践する。	4	4	どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善をする教員が90%以上				4	4	児童のアンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が90%以上				教員は、一人一人の児童に対して、ていねいに対応して理解している姿が見られる。教員は、指示・発問を短く、端的で、児童が受け取りやすい言葉で伝えている。『授業で分かったり、できるようになったことが増えたりする』と感じた児童が9割以上いるのは、素晴らしいこと。継続して児童が「分かる」「できる」を体感することできるよう個別最適化した学習方法を工夫する。							
	3	どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善をする教員が80%以上				3	児童のアンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が80%以上																
2	どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善をする教員が70%以上				2	児童のアンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が70%以上																	
1	どの児童も参加し、理解・習得を目指した授業改善をする教員が70%未満				1	児童のアンケートで「授業で分かったり、できるようになることが増えたりする」と答える児童が70%未満																	
	自分たちで考え語り合いながら生み出す学び合いと活動を行う。	身に付けた知識・技能を、よりよく生きるために創意工夫する力に結び付けられるよう、対話を通して学ぶ学習を行う。	各教科等や学級活動において言語活動の充実を図りながら、自分の考えを伝え合う活動を計画し、指導の改善を図る。校内研究を通して対話力を高めるための指導に取り組む、児童が学んだことを踏まえて考えをもち、対話を通して思考・判断し深く考える経験を重ねる。	4	4	対話を通して思考・判断し深く考える授業を実施する教員が90%以上				2	4	児童のアンケートで、「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が90%以上				自分の考えを伝えることができる児童が77.4%いることは、かなり高いと考える。目標とする基準が高すぎたのではないか。児童の成長は、十人十色なので、児童の発達段階や一人一人に合った自分の考えを相手に伝える方法を指導していったほしい。話したくなる内容や身近な話題でのやりとりを繰り返して、対話になれば、できるようになっていったほしい。							
	3	対話を通して思考・判断し深く考える授業を実施する教員が80%以上				3	児童のアンケートで、「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が80%以上																
	2	対話を通して思考・判断し深く考える授業を実施する教員が60%以上				2	児童のアンケートで、「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が70%以上																
	1	対話を通して思考・判断し深く考える授業を実施する教員が60%未満				1	児童のアンケートで、「授業中に自分の考えを伝えられた」と答える児童が70%未満																
豊かな人間性	自分を大切にするとともに他人を大切にしている豊かな人間性の育成を推進する。	児童が生命の尊さや生きる喜びについて実感し、考えを深めることで、自他の「いのち」を大切にしようとする心や相手を思いやる心を育む。	全教育活動を通じて道徳教育を推進し、豊かな心の育成を図るとともに、児童の体験的な活動を取り入れ、生命の尊さを実感的に学べるようにする。旭が丘小学校「いじめ防止」基本方針に基づく、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めるとともに、SCや巡回相談員、SSWとも連携し、児童を守っていく。また、居心地のよい学校づくりに努める。	4	4	子供同士が望ましい人間関係づくりができるよう取り組む教員が90%以上				3	4	児童のアンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が90%以上				「学校が楽しい」と思える児童が多いことは素晴らしい。教員が一人一人の児童に対して、ていねいに対応しているからではないか。これからも、一人一人の児童の頑張りや良さを褒めて、楽しくないと答えた子供も自己肯定感を高め、「学校が楽しい」と感じられるようになってほしい。							
	3	子供同士が望ましい人間関係づくりができるよう取り組む教員が80%以上				3	児童のアンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が80%以上																
2	子供同士が望ましい人間関係づくりができるよう取り組む教員が70%以上				2	児童のアンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が70%以上																	
1	子供同士が望ましい人間関係づくりができるよう取り組む教員が70%未満				1	児童のアンケートで「学校は楽しい」と答えた児童が70%未満																	
	学習指導要領の趣旨を踏まえ、旭が丘小学校らしい教育活動を展開する。	体育科の授業や体育的活動、外遊び等を通して、運動の日常化を図るとともに、自分の体や心の健康にも目を向けさせ、体育・保健・食育を通して体力の向上を目指す。	体力向上を目指して、体育科授業において運動量を確保した授業を展開したり、定期的に休み時間における学級全員により外遊びの実施を進めたりする。学校全体で取り組む体育的行事を通して、協力して楽しく取り組みながら、挑戦する意欲を高める。また、日々の保健や食育指導を通し、健康な体をつくっていくことの大切さを伝えていくことで、自分の体や心についての関心をもたせ、児童の心の安定を図る。	4	4	健康に生活することや運動に親しむことを考える授業や活動に取り組む教員が90%以上				3	4	児童のアンケートで、「休み時間は外遊びや運動などしている」と答える児童が90%以上				児童が体を動かすことが楽しいと感じる授業や取組を継続していったほしい。児童が怪我をしないことが一番だが、どうしても怪我をしてしまうこともある。怪我の件数より内容を重視することが大切である。活動内容と安全とのバランスが大事。これからも継続して児童が安全な学校生活について自ら考え、経験する機会を設けていったほしい。							
	3	健康に生活することや運動に親しむことを考える授業や活動に取り組む教員が80%以上				3	児童のアンケートで、「休み時間は外遊びや運動などしている」と答える児童が80%以上																
	2	健康に生活することや運動に親しむことを考える授業や活動に取り組む教員が70%以上				2	児童のアンケートで、「休み時間は外遊びや運動などしている」と答える児童が70%以上																
	1	健康に生活することや運動に親しむことを考える授業や活動に取り組む教員が70%未満				1	児童のアンケートで、「休み時間は外遊びや運動などしている」と答える児童が70%未満																
わくわく	わくわくが広がっていく環境のデザインを構築する。	本校をとりまく教育環境を生かし、自然や人と共生し、相手を思いやる豊かな心を育成する取組を行う。	児童が地域や郷土を知り、誇りをもち、進んでかわろうとするようになるために、雑木林を活用した授業、社会科学習や総合的な学習の時間、特別活動等において見学したり地域の方と関わったりする活動を行う。取材や対話・体験を通して子供自らが地域のためにできることを考えさせる。	4	4	地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が90%以上				4	4	児童のアンケートで「地域での活動は楽しい」又は「雑木林での活動は楽しい」と答える児童が90%以上				児童は、学校で様々な経験をしていることが分かった。雑木林は旭が丘小の財産である。「地域又は雑木林での活動は楽しい」と答えた児童は90.9%（昨年度比5.4%増）であった。昨年度見直した生活科や総合的学習の時間の年間指導計画を基に、地域や本校の特色である環境を生かした授業を進めることができた。これからも、地域や本校の特色を活用した授業を行っていくとともに、学習したことを地域に返していく学びを計画し、地域や環境を活用した教育を行っていく。							
	3	地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が80%以上				3	児童のアンケートで「地域での活動は楽しい」又は「雑木林での活動は楽しい」と答える児童が80%以上																
	2	地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が60%以上				2	児童のアンケートで「地域での活動は楽しい」又は「雑木林での活動は楽しい」と答える児童が70%以上																
	1	地域や本校の特色ある環境を活用し授業を行う教員が60%未満				1	児童のアンケートで「地域での活動は楽しい」又は「雑木林での活動は楽しい」と答える児童が70%未満																

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。